

# コロラドの大地を訪れて

アメリカン・ロックキーを滑る

テルライド&アスペン



良質の雪と  
見知らぬ大地を求めて  
アメリカを訪れた。  
ロッキー山脈の最果て、  
コロラドの最奥に鎮座する  
テルライド・スキーリゾートと  
古き良きアメリカの雰囲気を  
今もたたえる、アスペン・エリア。  
コロラドの赤い大地がつなぐ、  
ふたつのスキーエリアを  
フェロートラベルがフルエスコート。  
スキー場内で滑れる  
バックカントリーを中心に、  
フェロー・フレステージの世界を  
たっぷりの雪とともに紹介しよう。

## 協力

コロラド州観光局

テルライド・スキーリゾート  
株式会社フェロートラベル

写真とレポート  
椿川智亜希(SJ)



# TELLURIDE

テルライド・スキーエリア

ロッキーの奥座敷で、パウダーニ味

1／北米スキーの雰囲気いっぱいのグローネロッジ 2／ジャセブス・レストランの、ボリューム、味とともに満点のチリドック 3／テルライドと言えばブラックアイアンボウル。雪崩コントロールがされたエキスパートのためのコースだ 4／基本的にスキー場内であればどこでも滑ることができるテルライド。リフト脇でもハードな斜面が数多く点在する 5／新しくオープンした、アルペンビーノのターキーサンドは絶品 6／コロラドの良質なパウダーを堪能。ゲレンデ内でも充分に満足できるのが大きな魅力だ

6

ロッキー山脈の最果て、  
テルライドへ

アメリカ内陸部に位置するコロラド州には、赤い土と黒い瓦礫が積層となり、荒涼とした。アメリカの原風景が広がる。この土地は、その昔、世界中の人々を魅了したゴールドラッシュとともにその開拓の歴史を刻んできた。

そして、今回訪れたロッキー山脈の最果て、テルライド・スキーリゾートの歴史もゴールドラッシュとともにあります。1887年に開拓されたテルライドの語源はふたつ。ひとつはここで多く産出していた希少鉱物の「テルル」から。それでもうひとつは「ゴーラー」。この言葉は、テルライドへ行くための道程が恐ろしく長く、まさに地獄へ行く思いをしなくてはいけない、といつたところからきているのだという。

日本からはシアトル国際空港、デンバー国際空港を経由し、ニューメキシコ州にほど近いデュランゴ空港まで、搭乗時間だけで約16時間。さらにバスに乗り換え3時間ほど山道を走るとテルライドへと到着。飛行機の待ち時間を含めれば、ざっと24時間ほど。まさに「to hell」な思いをしながらたどり着いた場所が、アメリカの奥座敷、テルライドだ。

スキーイン、アウトができるホテルからスキー場へと滑り込む。程よくグルーミングされたバーンを軽快に飛はしながら、リフトを横に横に乗り継ぎ、





10／24時間動いているゴンドラでアクセスする、マウンテンレスortsラン「オールレッド」は、雰囲気も最高だ

11／メニューも、ステーキからシーフードまで幅広い。スキー場にいながら、ゆったりとした時間を楽しむことができる。ワインの種類も豊富



7／滞在はマウンテン・ビルッジにある「ピークス・ホテル」。すべてがゆったりとした作りで、落ち葉いた雰囲気のホテル。

8／ホテル内にはプール、ジャクuzzi、ミストサウナ、サウナ、ジム、ラウンジなど充実した設備が整う

9／スキー板の管理から準備まで、ホテルのスタッフが行なってくれる



## 全米が注目するテルライド

金の採掘とともに開かれたテルライドの街並みは、氷河に削られた谷間、2667mの標高に位置する。その上部、標高2907mにスキー場のベースとなるマウンテン・ビルッジが1987年に新設されたことで、リゾートとして発展してきた。車で約15分ほどの場所にプライベートジェット機のみが離着陸できる空港が整備され、現在、高級リゾート地としても名高い。

スキー場上部は、ヒマラヤ杉の森林限界を越え、標高4059mを誇るバルマイラビック眼下の本格的な山岳エリアとなっている。高い標高、そして年間約300日は太陽が顔を覗かせる内陸性の気候。さらに、平均7mを超える豊富な積雪量が、テルライドの特徴となっている。



標高を稼いでいく。庄雪車を入れないほどの急斜面にはパウダーが残され、さらにヒマラヤ杉を縫うように滑るツリーランもかなり楽しい。

森林限界を越えたスキー場上部に位置する「ブラックアイアンボウル」は、パトロールによって完全にコントロールされたバックカントリーエリアだ。降雪があればダイナマイトによって人工的に雪崩を起こし、安全を確保する。ローカルも含め、テルライドを訪れるスキーヤーの多くは、このアイアンボウルが目当てのひとつ。最短で15分ほど登れば、最上級者レベルのスキーヤーを対象とする、ダブルブラックダイヤモンド標記の山岳コースを滑ることができるのだ。標高の高さから、息を荒げながら斜面に飛び込む。すでに先行するスキーヤーに荒らされた斜面でも、良質のパウダーと急斜面のおかげで、快適に滑ることができる。

雪が降った次の日には、ブラックアイアンボウルも良いが、スキー場のなかにある独立峰、バートマウンテンもお勧めだ。ダブルブラックダイヤモンドのコースでありながらも、登り口がわかりにくいためか、約40分のハイクアップでノートラックのパウダーを堪能することができる。

北米バックカントリーシーンを、スキー場のなかで再現することができる「テル」な思いで行くだけの価値は十二分にある。



どのスキー場も、コース状況がひと目で確認できるボードが設置されている

ハイランドからは、マーロンベル、ピラミッドピークの眺望を楽しむことができる

ハイランド中腹にある「クライド・ナイン」。伝統ある本格的なビストロだ

- 1/滞在したストーンブリッジインホテルでの食事は、ラムチョップやシーフードなどメニューも豊富
- 2/本格的なタコス料理も楽しめるスノーマス・ビレッジ
- 3/スノーマスの中腹にあるレストラン「サムズ・スマートハウス」は、洗練された料理が自慢だ
- 4/こちらも「サムズ・スマートハウス」でのメニュー。カッティングステーキのボリューム、味ともに満足



閑静な街並を走る馬車は、伝統ある高級リゾートならではの光景

サークエリアから続くスティーブな斜面は、パウダースノーで覆われている

# ASOPEN

アスペン・スキーエリア

# 圧倒的なスケールを誇る アメリカン・ラグジュアリーリゾート

## 《SNOWMASS》 スノーマス

エリア最大規模のコースレイアウトは、そのバリエーションも豊富。山岳エリアからツリーラン、そしてグローミングされたロングコースと幅広い。また降雪があれば、そのほとんどのコースがパウダーエリアと化す。どんなスキーヤーにもお勧め

## 《BUTTERMILK》 バターミルク

比較的こぢんまりとした規模のバターミルクは、何といってもパークの充実度が高い。ウィンターバーチームの開催地としても有名なほどだ。また、ほかのエリアに比べて混雑度が低く、斜度設定もやさしいので、ファミリーや初心者にも人気がある

## 《MOUNTAIN》 マウンテン

山頂の展望エリアからは、ロッキーの名峰、キャッスルとハイデンのピークが目の前に迫る。最長4.8kmのグローミングバーンを滑り降りると、歴史あるアスペンの街並が広がっている。山頂まで一気に上ることができるシルバーキーンゴンドラでコースへのアクセスも良い



アスペンでもっとも広大なエリアを誇るスノーマスマスキー場。なかでも、最上部に広がるサークエリアはとても魅力的だ。何本ものリフトを乗り継ぎ、長いJバーを経由してたどり着くのは、森林限界を越えた標高3,800mという別世界。天気が良ければ、4,295mのスノーマスマウンテンや4,314mのマーロンマウンテンなど、ロッキーの名峰を眺めることができる。サークエリアからの滑り出しは、スティーブなオープンバー。そしてすぐにヒマラヤ杉がぼつぼつと現われ、良質なパウダーを堪能しながらコースは徐々に木々に囲まれていく。サークエリアを出発点にすれば、こうしたコースのバリエーションは無

キ-が伝えられた場所、アスペン。その伝統に打ちされたホスピタリティ溢れるリゾートを訪れる。

アスペンは、アメリカン・ロッキ-に沿って横へ横へと連なるスキー場。マウンテン、ハイランド、バターミルク、そしてスノーマスと4つのエリアで構成され、スキー場間は無料のバスによって連結される。つまり、どのエリアに滞在しても、すべてのスキー場をめぐることができるのだ。ただし、アスペンすべてを細やかに網羅するには、1週間以上の滞在が必要だ。今回はツア-で滞在したスノーマスと森林限界を越えてキャットでめぐるハイランドボウルのふたつを紹介しよう。



## 伝統に裏打ちされた高級リゾート

アメリカでもっとも伝統あるアスペンは、古くから高級リゾートとして発展してきた。そのため、エリアまでのアクセスは良く、空港まで車で約10分ほどの距離。また、空港には多くのプライベートジェット機が屋根付の駐機場に係留されている。スノーマス・ビレッジ、そしてマウンテン下のアスペンの街には多くのレストランやショップが立ち並び、アフタースキーには事欠かないだろう。巡回バスも夜10時までの運行なので、ゆったりと買い物もできる。

特色ある4つのスキー場は、バックカントリーから完璧なグルーミングバーン、そしてパークとあらゆるジャンルのスキーを楽しむことができる。トップからボトムまでの標高差も2000mを超え、滑り応えも充分。



## 《HIGHLANDS》ハイランド

スキー場上部のバックカントリーエリア、ハイランドボウル。そして未圧雪エリアのステイプレイチーズ。さらにグルーミングされた広大な一枚バーンのゴールデンホーンウッドと、それぞれ特徴あるコースが程よくミックスされたスキー場。標高差も2451mを誇っている



## スキーコースの中でも味わう キャットскиー

限。しかもエリアが広大なので、ノートラックのパウダーを何本もりフトアクセスで滑ることができる。

压雪車の荷台に設置されたゲージに乗ると、キャットはハイランドボウルへ続く尾根を進んでいく。ハイランドスキー場の最上部にあるハイランドボウルは、ダブルフランクダイヤ

モンドのステイプな斜面。森林限界を越えた本格的な山岳エリアだが、バトロールによって完全にコントロールされたスキーコースの一部となっている。

10分ほどのキャットによる移動で、ハイランドボウルの取り付け場——メインゲートに到着。さらにビーグルゲートまで約2時間ほどのハイクアップが必要となるが、もちろんビーグルまでの中から斜面にドロップインすることもできるので、自分の好きなラインを

見つけて滑り出せば良い。広大なエリートには要注意。ボトム部は漏斗状になつていて迷う心配はないので安心だ。帰路は、連絡路によつて誘導される。最後は、広大で完璧にグルーミングされた一枚バーン、ゴールデンホーンウッドコースを高速で滑り降り、雲のランチ。今日のドリーム・スキーイングをしめくくろう。

